

06-7/12(山陽)

不妊の相談 認知高まる

されつつある。一方で開所日が平日のため、「共働き夫婦や男性のニーズに十分応えていない」(同センター)という課題も抱えている。
(二羽俊次)

「県不妊専門相談センター」が2004年5月、岡山大病院(岡山市鹿田町)に開設されて2年余り。05年度は500件以上の相談が寄せられ、不妊などに悩む夫婦らに認知

県センター開設2年余

同センターは、県が岡山大病院に運営を委託。不妊のほか、流産や死産を繰り返す不育症などについて、中塚幹也・同大医学部保健学科教授や産科婦人科の医師、カウンセラーが無料で相談に応じている。
○五年度の相談(重複あり)

05年度500件超す

り)は五百四十五件に上り、ち、女性が85%(百四十二件)を占めた。内容は、不妊に関する精神的なストレスや性感染症、性同一性障害などの悩みも二百三件あった。



電話相談に応じる県不妊専門相談センターのスタッフ

男性、共働き 対応課題

不妊・不育の相談では、これらの原因を突き止めるため、最寄りの医療機関を紹介。不妊治療で出産に成功したケースは○五年度、判明分で十数人に上ったという。

一方、運営上の課題もある。来所・電話相談は平日午後(水、金曜の午後1〜5時)に限られ、男性の相談が一割強にとどまっている。匿名が多く、治療経過の把握など継続的なサポートが困難という。

中塚教授は「医療機関での受診をためらっている人は、ちょっとした不安や疑問でも気軽に相談してほしい」と呼び掛けている。

相談電話は086-235-6542。ファクス、メールは二十四時間受け付け、来所は予約が必要。